



## 古楽器という「モノ」から学ぶ楽しさ 中村桂子・評

### ピアノはいつピアノになったか?

伊東 信宏: 編集、松本 彰: 著、渡辺 裕: 著、渡邊 順生: 著、村田 千  
ギニャール: 著、岡田 暁生: 著、小沼 純一: 著、三輪 眞弘: 著

大阪大学出版会

1,785 円

ISBN: 4872592344

何が気に入ったと言って、本書の生れ方である。音楽学者で大阪大学の先生である紀阪・梅田にあるザ・フェニックスホールからレクチャー・コンサートを依頼される。近年、求められた存在であることが求められているし、お勉強好きの日本人に合わせたコンサートのレクチャーは少なくない。その一つとして、ピアノの歴史を扱った公演が八回行なわれ録として出版されたのが本書である。したがって、書評としては、記録の内容を紹介し、かの評を加えるのが役目だろうが、最初に述べたように、本書を取り上げる気持ちになっ一つは、これが生れた経緯にある。

きっかけは、十年ほど前に、編者が堺市にある「フォルテピアノ ヤマモトコレクション」ことにある。持ち主は、山本宣夫氏。ピアノ製造・修理の修業後、ウィーンの名門メーカーゼンドルファー本社工場で研鑽(けんさん)を積み、オーストリア国立ウィーン芸術史博われて古楽器修復を始めた方である。ピアノの発明者クリストフォリの楽器復元で国を得た氏は、古楽器を収集し、公演で使える状態にして、その価値を訴えている。

十八世紀から現在までのピアノが使える形で存在するコレクションは希有(けう)のもこんな素晴らしいものが、日本にあるとは知らなかった。音楽の専門家の編者も十年前訪れたとのことであり、本当によいものは得てしてこんな形であるものだ。編者は、書物「モノ」から学ぶ楽しさにはまったようだ。現在のピアノが黒塗りのベンツだとすれば、モーツァルト時代の楽器はもっと親密なものだったのではないかと考え始める。

このコレクションを生かす形で組まれたシリーズは、最初にピアノ誕生、そして、ハイトナーヴェン、シューベルト、ショパンと代表的な作曲家を通して歴史を追い、その後の三

九世紀、一九二〇年代、そしてピアノ・ロボットと続く。各講とも専門家によるレクチャー代に用いられたピアノによる演奏とから成り、是非参加したかったと思わせる。

ピアノの発明者はB・クリストフォリとされているが、その本体構造は、一九九〇年イブツヒ大学所蔵の楽器のX線撮影によって初めて明らかにされたのだそうだ。山本氏九九年に忠実なレプリカを作り、響きを持続させること、軽いタッチを可能にすることなど、器が天才的工夫に満ちていることを知る。楽器は、単に進歩、発展という基準だけで語はなく、ある時代の美意識と最新技術との組合せとして見るべきものであり、とくにピアノをよく表わしていることが示される。

たとえばハイドン。十九世紀の音楽は、有機的統一を求め、ピアノも豊かな協和音を出していたので、ハイドンは単純で退屈と評するのがきまり文句になっている。しかしのクラヴィーア・ソナタは、多彩、差異、質感の多様性があり、これは一つ一つの音が粒きの表面が磨きつくされていない当時の“ピアノ”でみごとに表現されるものだったのでと説明されると、なるほどと思う。

ベートーヴェンは、さまざまなピアノがそれぞれに持つ音量の豊かさや微妙さをすべて持つ音を求めており、一八〇九年にシュトライヒャーの開発した新型ピアノに驚喜したとここで、五年間遠ざかっていたピアノ曲に着手、ピアノ協奏曲第五番〈皇帝〉とピアノ三重奏曲〈大公〉が生まれたのだそうだ(気分よく過したい時、この二つをよく流すので、新型ピアノがある)。

各講とも興味深いが、シルヴァン・ギニャール氏のショパンは特別のものだったようだ(ムに経緯が紹介されている)。ショパンのワルツ研究で博士号取得後、来日して琵琶演ったギニャール氏は、ショパンの創作に靈感を与えたとされる楽器プレイエルを山本氏初めて弾き、音が鳴った瞬間涙をこぼしたという。この楽器は、ショパンの愛した一八四近いものを修復したものだとのこと。レクチャーの時にこのピアノを弾いた幡谷幸子さんは機械ではなく生きものだと言い、「最初は気難しかったけれど、体と楽器が繋(つな)がく“対話”できるようになった」と語っている。これが、ショパンの言葉と重なるというのが

巻末コラムに、講演と演奏がうまく連携していない回もあったとある。読んでいてもそ

た。本も、話と演奏とのやりとりがわかるようにしたら、臨場感がありより楽しめたのにも  
奏の一部のCDがついているのはありがたいのだが)。

大学が社会へ入りこんでいく活動の一つとして、更なる工夫のもとに続くと楽しい。

<毎日新聞 2007

### ピアノはいつピアノになったか?

伊東 信宏:編集、松本 彰:著、渡辺 裕:著、渡邊 順生:著、村田 千尋:著、S. ギニャール:  
著、岡田 暁生:著、小沼 純一:著、三輪 眞弘:著  
大阪大学出版会  
1,785 円  
ISBN: 4872592344



Amazon で購入する  
楽天 で購入する



バルトーク 民謡を「発見」した辺境の作曲家  
伊東 信宏:著  
中央公論社  
777 円



ハイドンのエステルハーゲン・ソナタを読む  
伊東 信宏:著  
春秋社  
2,415 円



ピアノの誕生 楽器の向こうに「近代」が見える  
西原 稔:著  
講談社



ON BOOKS 21 音楽史ほんとうの話  
西原 稔:著  
音楽之友社  
924 円

表紙  
書評  
短評  
本と人  
情報

< Google ブログ検索

「今週の本棚」掲載新聞 このサイトに

---

Copyright 2006-2007 THE MAINICHI NEWSPAPERS.All rights reserved.

掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。  
著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します